

ドル円相場
サイクル分析

～ギャン理論から見た通貨～

ギャンアナリスト 中原 駿

【長期相場サイクル分析】

過去、当欄ではギャン理論に基づいて何度かドル円相場の分析を行ってきたが、今回はこの金融版投資日報でサイクル分析を、2017年1月4日付の商品版投資日報でシンセティクス分析を行う。ご興味の方は、併せてお読みいただければ幸いである。

17年サイクルと5.5年サイクル

ドル円相場の長期相場サイクルには、17年サイクル仮説(あるいは16～18年)が有効。1970年代以降、このサイクルは都合3回確認。1960年前後(おそらくはドルの歴史的ピーク)から78年、78年から95年、そして95年から2011年10月(あるいは11年3月～12年9月にわたるトリプルボトム)の3つ。つまり11年10月安値が現行17年サイクルの起点である。

相場サイクルは2～3分割されるが、17年サイクルは3つの5.5年サイクルに分割されている。3分割されている場合、内包する第一、第二サイクルは通常は歪まない。そんな中で注目すべきは、起点から4年8カ月後に出現した今年6月24日の安値99.10円が第一(5.5年)サイクルのボトムであったかどうかだ。

5.5年(66カ月)サイクルは許容範囲(±12カ月)も入れると16年3月～18年3月がターゲットの時間帯。日柄的にもう一つ下落サイクルが入る可能性はゼロではないが、筆者はここで第一サイクルは底打ちしたというメインシナリオを考えている。

過去の17年サイクルの第一サイクルの下げを分析すると、①下落期間は15～16カ月(想定レンジ12～19カ月)、②下落率20～32%、③全上昇に対する調整率55～70%という数値が出てくるのだが、今回の第一サイクルは15年6月5日の高値をトップとすると①が16年6～11月まで(12～17カ月)、②が85.58～100.68%、③が90.65～97.94となる。実質的な上昇相場が11月9日の米大統領選終了直後以降であったとすると、ほぼ理想的な日柄と値幅で終わったとみなす事が可能になる。

この見方が正しければ、現行17年サイクルは現在第二サイクル入りしている事になる。変動相場制以降の17年サイクルの第二サイクルの上昇を分析すると、①上昇期間23～25カ月(想定レンジ21～26カ月)、②上昇率133～140%、③第一サイクルの上昇幅に対して55%、(62～66%)、100%、④前5.5年サイクルの下落幅に対して73%、(100%)、132.8%となり、これを6月安値に当てはめるとトップ想定時間は18年5～7月、上昇率は131.80～138.74円、下落幅に対する上昇は118.66円(73%)、125.9円(100%)、134.69円(132.8%)となる。つまり相場はボトムから約2年上昇し、118円、125円など注意すべきレベルはあるが、おおよそ135円±3円程度までは十分に上昇が見込めるという事になるだろう。

5.5年サイクルは、2つの33カ月サイクルに分割できる。更にこの33カ月サイクルは、144週サイクルと換言することも可能で、4～5つの33週(レンジ24～40週)のプライマリーサイクル(以下P Cと略)か、3つの11カ月サイクル(あるいは48週:レンジ40～56週)で構成されていると見る事が出来る。

【中期相場サイクル分析】

前回の11カ月サイクル、つまり前5.5年サイクル内最後の11カ月サイクルは36週、45週、43週で終了した。新5.5年サイクルも2つの33カ月サイクル、更に3つの11カ月サイクル、つまり週足なら48週前後で構成で形成されるようだ。

更に48週サイクルは2つの24週サイクル(レンジ20～28週)からなり、トランプショックの11月9日の安値はそのボトムであったと推定される。次の24週サイクルボトムは2017年4月26日付近(3月29日～5月24日)でボトムアウトする予定だ。



現行サイクルを波動的にカウントすると、6月安値から11月安値までの上昇波を1、下降波を2として、現在の24週サイクルに向けた上昇波を3となり、破壊的上昇を見せる第三波動と一致する。実際、トランプショックからの立ち上がりは非常に第三波動的である。この24週サイクルは更に細かく3つの8週サイクルか、2つの12週サイクルで構成されるが、その殆どは上昇に費やされる、つまり7～10週程度の非常に強力な上昇波動が観察されよう。この上昇波をフィボナッチで第一波動の1618倍とすると115.07円(113.43～116.72円)がターゲットである。11月25日の高値はターゲットレンジに到達している事には留意したい。ただし、カウントが正しいとすれば、少なくとも8週サイクルの最後のあたりー具体的には本年12月最終週から来年1月頭に今一度高値を付ける可能性が高いと考える。

現行サイクルはP C(33週サイクル)より48週(11カ月)サイクルが優勢であり、後者のハーフサイクルである5.5カ月(24週)サイクルが有効である。このサイクルが正しいとすれば、11月9日にボトムアウトした24週サイクルは2017年4月最終週をターゲットとしている。現行24週サイクルはその殆どを上昇に費やすはずで、P C分析上も、商品版に掲載しているシンセティクス分析上でも、2017年4月をターゲットに上昇する。

現時点での2017年の予測は、少なくとも4月までは全てのサイクルが上向きであり、非常に強い上昇が続くものと想定される。

その後は順調であれば、5月中(遅くとも11月まで)にはボトムアウトし、第二11カ月サイクルの上昇局面に入る。分析が正しければ、この第二サイクルも強気であり、2018年5月～7月、価格的には135円±3円を目指して上昇するだろう。

結論として来年は年間を通じて押し目買いが有効と判断する。

テクニカル

2万円射程圏

日経平均株価は先週年初来高値を更新、今年前半の下げ幅約4,000円を取り戻した。1年を通してほぼV字のイッテコイ型となったが、1月の日銀ショックから始まり、6月プレグジットショック、11月米大統領選ショックと1年間で立て続けにイベントショックが到来する年も珍しい。ただ相場はことごとくこのショックを乗り越え、1年を終わってみれば元の本阿弥。近年では1995年の相場を思い浮かべる、その年の大発会は19,724円から始まり、年初から続落、7月3日に年間安値14,295をつけた後、V字で反発。12月22日に漸く大発会値を上抜け、12月27日20,011円で年間の高値を付けた。その後大納会は19,868円であった。

波動の形こそ若干異なるが、今年は大発会が18,818円、年初から続落して2月と6月でダブルボトム14,864円。以降、V字回復を示し、12月9日に大発会の始値を上回った。

価格レベルと年央安値、年末年始元の本阿弥系は95年と良く似ている。これで年末までに2万をつけて、年末19,868円で終わると笑ってしまうが、注目すべきは1996年の大発会

は19,945円で始まり、引け値が20,618円と前年末比750円高の大幅値上がりとなった。その勢いは6月まで続き、そこで22,750円の天井を付けた。そのリズムが来年も当てはまるか注目しておきたい。年末年始、2万円は射程に入った。



今週の必押し

悩ましき 1.05 の壁

ユーロドルの売りをいち押しに掲げる当欄の基本見通しは、以前から変わっていない。即ち“…昨年3月からの相場は38週、29週で安値が出現している事を鑑みて、節目となる安値は本年末から来年始めに出現すると見る。…相場は少なくとも1.045、もしくはパリティ（1：1）になると予測。買い参入はそこまで待ちたい。なお、売りの損切りはリスク許容度に応じて1.0950か1.115以上の引け値に置きたい”。

その上で、5月以降高安値でチャネルラインを作成し、11月末から12月頭にかけ短期的な戻りを予測し短期買いを推奨。戻りの目安として①3月安値ラインの水準、②6月安値ライン付近での利食いドテンを推奨。これに成功していた。

更に先週は“…恐らくまだまだ下げていくのではないかな。…まだ日柄が若い。先週5日安値を割り込むか1.06でもたつつか、大きく戻しても①が限界だろう”として売りの継続を推奨。実際、相場は下落しチャネルライン下限を引け値で割り込んだ。

水星逆行開始日（12月19日）直前に安値が更新されるのは非常に悩ましい。往々にして今週は反転ポイントになりやすい。

水星逆行期間中は、テクニカル指標の信用性が低下する事を理解した上で現行相場のチャートパターンで見ると、恐らく11月9日（1.1299）から2段下げ波動を形成中と考える。相場はこの11月高値から12月5日（1.0504）まで0.0795下げたので、12月8日の1.0862から1.0067まで下がる可能性がある。

加えて、週足の線形では2015年3月安値を割り込んだので、1年9カ月に及ぶレクタングルパターンが崩れたと考える事も出来る。下放れた事で相場は0.95まで下落する可能性を見る。

ただ、今週は水星逆行から始まるのでダマシの可能性も否定できない。日柄的にはまだ若い、念の為に売りポジションは3分の1程度利食いしておいて損はないものとする。

仮に今週反転した場合、現在上値抵抗線となっているチャネルライン下限、数値にして1.05を引け値で連続して突破できるかに注目したい。更に1.06付近にある23日移動平均を引け値で突破すると底打ちの可能性が高くなる。ただ、実際にそうなるまで基調は依然として弱気。戻り売り方針を踏襲する。

今週の主な予定・経済統計

12月19日（月）

- ・11月の日本貿易収支
- ・日銀金融決定会合（20日まで）
- ・12月の独IFO景況感指数
- ・イエレンFRB議長、講演

12月20日（火）

- ・日銀政策金利発表、黒田日銀総裁会見

12月21日（水）…下弦で冬至

- ・11月の米中古住宅販売件数（550万件の予想、前月は560万件）

12月22日（木）

- ・第3四半期の米GDP確報値
- ・第3四半期の米個人消費、GDPデフレーター
- ・11月の米耐久財受注（前月比4.5%の減少予想、前月は4.6%増加）
- ・米週間新規失業保険申請件数（前週は25.4万件）

12月23日（金）

- ・11月の米個人支出、個人所得、PCEコアデフレーター
- ・【日本】天皇誕生日で休場
- ・【英国・米国他】クリスマスイヴを前に一部短縮取引
- ・12月のミシガン大学消費者信頼感（98.0の予想、前月は98.0）
- ・11月の米新築住宅販売件数（57.5万件の予想、前月は56.3万件）



今週の相場風林語録

三利あれば、三患あり

三つの利があれば必ず三つの弊害がある。利と弊は常に相伴う。したがって油断大敵であり、むやみに喜ぶな、むやみに悲観するな、が実感としてなるほどとわかったりする。

今週の**九星★波動**

天井波乱に注意

南雲 紫蘭

12月になっても相場に膠着の兆しは見えず。11月末から第1週にかけてのそれなりのドル円調整は、恐らくヘッジファンド等投資家の利益確定の値動きが大きかったと思われます。

それでもさほどドルが下げなかったのは、ドルに対する世界の需要が想定以上に大きいという事なのでしょう。所謂プレミアムを払ってもドル不足を補う必要がある（邦銀も含めた）外国銀行、トランプの米国に投資機会があると睨むソフトバンク等の外資、トランプ減税による収益還元を前倒しにしようとする米国企業、それに益々広がる長期金利差からある程度ヘッジを外してでも米国債を買いたい生保等の長期投資家 — あらゆる意味で世界のドル需要は旺盛であり、特に投資機会が国内に見出しがたい本邦の企業・機関投資家によるドル買いはもはや奔流のようになっている、と考えてもいいでしょう。

筆者の感覚でこのような状況は、アベノミクス始まって以来

相場指南道場

トレーダーあすなろ物語 (375)

中原 駿

牧山は、上野の東京時代の上司であった。

剣道をやってきた細身の体型。頭髮はまだ40そこそこの非常に寂しく、簾のように伸ばしている。言葉は常に歯切れの良いもので、人によっては明快だが、きつく感じる人もいる。

時にトーンがむやみに上がるのも神経を触った。牧山は体育会らしく規律には非常に厳しく、ディーラーがまるで流れ者のように自由にふるまうのを非常に嫌った。

またTV出演や取材等も極力断り、表舞台に出るのを嫌う。「銀行員らしく」を標榜する牧山にとって目立つなどとはんでもないことであり、いつも表舞台に出ず、お客さまのために奮闘努力すべきという考えの持ち主であった。

第六感の 相場定石が想定外に発展



テクニカルアナリスト 葛城 北斗

相場は理外の理で動く

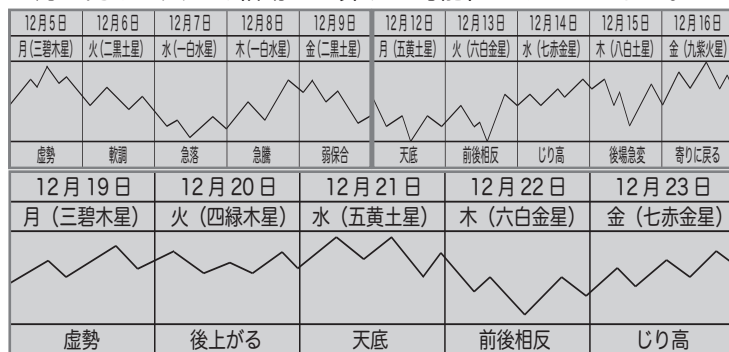
FOMCではまたしても意表を突かれた動きとなった。今年はまさにサプライズのオンパレード。利上げが意表であったわけではなく、来年2回の利上げ予定が3回との見通しが示されたということであるが、それは大した問題ではない。それに対する相場の反応がサプライズであったことだ。ドル円は僅か1日で115円割れから118円65まで上伸。利上げが0.25ではなく0.5ならこの異常さは理解できる。来年の見通しなど未だはっきりしない現状で2回から3回の利上げを示唆されただけでこれほど反応するとは想定外であった。どうやら、今回の利上げを120%織り込んだ市場は「材料出尽くし」からのドルの下げを想定した投資家が圧倒的に多かったということだ。これは通常なら相場の定石である。相場は先に織り込む。事実になった段階でそれは売りに傾く。この定石が逆に作用したと言うことだが、この現象はトランプショックの時にも見られた。ショック安は通常なら、一度急落した後、買い戻しにより一旦は下げ波動の3分の1～2は戻る。その後もう一度売られて安値更新が定石。ところがその戻りが全値戻し、そしてショック前の高値を1日で更新する動きなどは見たことがない。更にそれがトレンドと化し、殆どの売り方を死滅させた。トランプショックも想定外だが、その後の相場の動きも想定外。同じようなことがこのFOMC後の動きでも示された。

2週間前「5年サイクルが上昇期に入っているなら、この高

のマグマのようであり、その意味で115円といっても「まだまだ始まったばかり」と思えてなりません。

さて、九星波動は月盤《一白水星》の中盤に入ります。所謂「陰極」ですが、月盤は基本逆転していますから、「天井波乱」に注意したいところです。

最後の上昇はクリスマスの週でしょうか。あるいは薄い中、正月に向けて大きく相場が上昇する可能性もあるでしょう。



だが、時代は軽薄な浮ついた空気が流れつつあった。

銀行の市場国際部門にも企業自らのアピールが大切だ、と考える経営層が出始めていた。

そんな経営層にとってみれば、まるで田舎の小学校の教頭のような事を、経営層であっても諫言してくる牧山の存在が次第にうっとおしいものになってきたのである。

上野が彼に仕えた2年目のころ、呼びつけられた挙句、長時間説教をうけた事があった。

牧山にとって上野は下からは優しい兄貴分だったが、上に対しては是非非であった。

ということは、牧山から見れば上野は完全に自分に承服しない、ある意味御しがたい部下になっていた。

その様子は、上野を通じて下に伝わる。

牧山は、自分がなめられている、と感じていた。

下も中段の調整に過ぎない。1年後、後から見て安い値位置であったと判る」と述べた。11月末から12月初旬の高下はまさに中段の調整。さすがにFOMC後は一旦売られると見たがこの見通しは外した。ただ、「二つ目の谷である12月5日安値112.86を下抜けない限り、12月1日高値更新は時間の問題」と述べ、さらに「二つ目の谷を下回らなければ、次は3～5日のストレートの続伸につながり、116～118円を短期間でやりに行く」と述べた。これはそのまま見事に当てはまった。

目先のアヤを気にせずに買いだけを狙い取引できれば良いのだが、材料に惑わされ、変な勘繰りを入れることで、ドタバタするのは短期の投資家心理としてはやむを得ない。中長期投資家は先を見つめ悠然と構えながら、急落が入れば狼狽せずに拾っていけば良い。ただし、命綱をつけておくのは当然。それは現段階では40日移動平均（短期売買は14日）を引け値で下回らない限り、上昇を追い続けることだ。一部利食いを入れるとすれば次は120円台である。114～117円台は押し目買い。



サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

【第20回】NY金のサイクルについて (3)

NY金の超長期サイクルが『フォーキャスト2017』の中で25年(300カ月)から23.5年(282カ月)に短縮されたという事は、サブサイクルの日柄も当然短縮されます。

どのサイクルも必ず2分割、もしくは3分割されますが、場合によっては両構造が混成されるケースもあります。NY金の長期サイクルもその混成パターンと筆者は見えていました。

第二7.83年サイクル(94カ月±8カ月)の起点は2008年10月24日。3分割されると32.5±5.5カ月のサイクルが存在し、更にこのサイクルは3つの11カ月サイクルに分割される、とメリマン氏は見ておられますが、2分割の4年サイクルの存在も念頭に置いておいた方が良いでしょう、と筆者は思っています。

そこで08年10月からの月足で節目となる日柄を整理してまとめてみました。ここで争点になるのは、15年12月3日につけた安値のサイクル的な位置づけになると思います。

メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

星回りの今年最後の強力な時間帯に

先週発行されたMMAサイクルズレポートでこのような記述があった「今回のホリデイシーズンとその間の投資環境は、ジオコスミック面で見るとストレスにまみれる可能性がある」。

ひとえにこれは、以前から当欄で指摘しているこの記述から来るものと推測する。即ち“…12月26日前後が怪しい。12月27日(米国時間12月26日)3時半ごろ、木星と天王星はオポジション(180度)の関係になる。その2日前の25日に土星と天王星、金星と木星はそれぞれトライン(120度)の関係に。トラインは惑星間が良好な関係である事を示すソフトアスペクトと呼ばれる天体位相。良好転じて上昇のピーク、即ち天井と関連性が高い。これは株式や米ドルにはポジティブ、金やユーロドルにはネガティブに働くものと考え。更にこの時間帯は12月19日～2017年1月8日まで発生する水星逆行の

ご覧の通り、08年10月安値から15年12月安値まで計7回11～16カ月のサイクルが確認されています。昨年12月で7.83年サイクルがボトムをつけたなら、最後の13カ月が短縮サイクルボトムであった事になります。

一方、今月は日柄的に15年12月安値から丁度1年。11カ月サイクルが有効なら現在はボトム形成場面です。また、7.83年サイクルが4年ハーフサイクルで構成されるなら、現行11カ月サイクルのボトムこそが7.83年サイクルのボトムという事になるのですが…。次回は週足でサイクルを検証します。



中間点(12月28～29日)。筆者はこのエリアで大きな相場の節目が出現するものと予測する。…日経平均の長期相場サイクルの天底は、前後のシャドウ期(通常よりも運行速度が遅くなる時間帯)も含めた水星逆行発生場面をつける事が多い。筆者は以前、日経平均がここに向けて大下げすると見ていた。しかし大上げしているところを見る限り、これは逆パターンと見る”。

メリマン氏の研究によると、木星・天王星オポジション形成日±12営業日の時間帯と米国株式の相場サイクルの天底との相関性は非常に高く、これより相関性は低下するが±4営業日の時間帯でも有効であるという。故に米国時間では既に前者の時間帯に入っているが、後者の時間帯は20日からという事になる。ここは水星逆行開始日と重なるので相場の反転ポイント候補だ。

仮にここで反転しなかった場合、次の有力候補は来週26～29日付近になる。逆行開始日で反転しなかった相場は、しばしば水星逆行中間点で反転するケースが多い。恐らく、一本調子相場は軒並み、今週か来週のどちらかで天底をつけると見る。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み!!

今週のアストロロジー info

- 12月19日(月) ジリ高かジリ安の展開
- 12月20日(火) 売りたい強気、買いたい弱気
- 12月21日(水) 大衆人気が変わり易い
- 12月22日(木) 12月のトレンドに反する修正波は逆張りで対処
- 12月23日(金) 休むも相場
- 12月24日(土) 相場の時間軸は絶対的な指針
- 12月25日(日) 年末年始はアニバーサリーの転換が多い

星を読む。サイクルを読む。市場を読む。
Feel the star. Feel the cycle. Feel the market.

フォーキャスト2017

アストロロジーとサイクルで
2017年の相場を読み解く究極の書

「サイクル」「アストロロジー(占星学)」「テクニカル」
この3本柱で2017年の動向を予測!

アストロロジーでは2017年の水星および金星逆行の解説に加え、有力政治家の出生図やFRB、NYSE、そして米国の始原図から予測。主要天体位相の発生時間と始原図とを重ね「何故この時期は重要なのか」を解明。「フォーキャスト2017」目玉解説の土星・海王星ウェニングスクエアは終了したが、その影響は2017年中もまだ残る。メリマン氏はこの点を「世界無責任時代(ただし、もれなくスケープゴート付き)」という副題をつけて「土星はコントロール、統御を意味する。特に、政府や金融界のリーダー達のように権力の座にある人々が持つ、統制への欲求・衝動を象徴。しかし海王星は境界など知らないし、とりわけ境界線、限界、統御という意識が欠落している。…状況が制御不能となりヒステリー状態になっていくという一連の反応は、何とも中央銀行とインフレーションの問題に限ったことではない」と述べていた。2016年に起きた事象は「制御不能」と「無責任」という言葉は非常に的確だ。

恐らくこのスクエアの解説も行いつつ、次の一手が予測されるのではないだろうか。

幾つかの主要相場では長期相場サイクルの節目に入っており、アストロロジーとサイクル、どちらでも必読の内容となるだろう。

レイモンド・メリマン 著 秋山日揮香・投資日報編集部 訳
投資日報出版発行 8100円(税込・送料別)

12月26日発売予定 予約受付中!

簡単・便利な「投資日報オンラインショッピング」もご利用ください。

お問い合わせ先: 投資日報出版(株) <http://www.toushinippou.co.jp/>

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 3-12-11GRANDE 人形町 6F 電話: 03-3669-0278 FAX: 03-3668-4444

2017年最初の勉強会! 参加申し込み受付中!

2017年新春勉強会

フォーキャストのその先へ

勉強会の新年第一回目は、『フォーキャスト2017』を参照しながら、株式市場、通貨市場、国際商品市場の中から「どの銘柄を、どのタイミングで、どこで、どのように儲けて行くか」という問題を、サイクル・アストロロジー・テクニカル3本柱で分析。錦木自身の見解も織り交ぜながら、午前・午後の二部構成で解説します! 講演後にはご質問にも出来る限りお答えします!

講師	株式会社投資日報社 代表取締役 錦木 高明	定員	50名 (定員に達し次第受付終了)
会場	貸会議室日本橋清新丹 東京都中央区日本橋人形町1-4-10 人形町センタービル2階	参加費	14,040円(税込) ※お振込み手数料等はお客様負担となります。
日時	2017年1月28日(土) 11:00~15:00 ※途中昼食休憩あり(お弁当をご用意しております)		

■ 詳細・申し込みは >> <http://www.toushinippou.co.jp/> (セミナー)より申し込みください

(株) 投資日報社 電話: 03-3669-0278 東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE 人形町6階